

# みたか環境ひろば 第49号

平成 26 年 10 月 1 日号



## ■『緑のボランティア講座』第11期が開講します！

NPO法人花と緑のまち三鷹創造協会では、市内の緑を守り育てる「緑のボランティア」を育成するために、毎年『緑のボランティア講座』を開講しています。この講座は全6回の連続講座で、樹木や雑木林、竹林などの管理について学ぶことができます。実習では、樹木観察や、剪定、竹の伐採なども行います。講師は、東京農業大学教授の濱野周泰先生です。

受講生は幅広い年齢層で、男性が多いと思いきや、女性も半数近くいらっしゃいます。受講の理由も、「山や樹木が好きだから。」「ボランティア活動に興味があったから。」「何か趣味を見つめたくて。」など、人によって様々です。昨年は第10期生、20名が修了しました。講座終了後は、学んだことを活かして、市内で「緑のボランティア」として活動いただいています。

現在当協会に登録されている緑のボランティアは約60名。主に国立天文台内の竹林管理活動や、大沢崖線緑地の雑木林と竹林の保全活動、花と緑の広場でご活躍いただいています。また、ボランティアで構成された「緑のボランティア部会」では、定例活動の計画の他に、知識・技術向上のための研修会や講習会の企画などを行っています。毎年秋に開催の「ガーデニングフェスタ」（今年は10/4開催）では竹細工の体験ブースを出店しています。

今年の『緑のボランティア講座』は、11月22日(土)開講です。11/22・11/29・12/6・12/20・1/17・1/24の全6回の連続講座で、いずれも10時～15時30分。午前は講義・午後は実習です。会場は市内の緑地や大学などで、講義内容によって毎回異なります。受講料は5,000円（協会会員は割引有）です。

受講希望の方は11/4（火）必着で、往復はがきまたは、当協会ホームページからご応募ください。定員25名を超える場合は抽選となります。（花と緑のまち三鷹創造協会 貫井）

申し込み先：〒181-0014三鷹市野崎三丁目12番14号

NPO法人花と緑のまち三鷹創造協会 「緑のボランティア講座」係 <http://hanakyokai.or.jp/>



## ■ TOKYO油田プロジェクト

使い終わった食用油、みなさんはどのように処理されていますか。凝固剤で固めて？新聞紙に吸わせて？まさか排水口にそのまま、ということはないでしょうね。

使い終わった食用油も、実は私たちの大切な資源だということ、ご存知でしたか？回収して適切な処理をすれば、バイオディーゼル燃料や家畜の飼料、畑の肥料などにほぼ100%生まれ変わることができます。このリサイクルプロジェクトがTOKYO油田プロジェクトです。

東京では毎年20万トン以上の油が捨てられているそうです。これらを捨てることなく回収し再資源化することができれば、まさしく大規模なエコ油田が東京に出現してくることになりますね。

このプロジェクトに賛同し、回収ステーションに登録しているところが、三鷹に3か所あります。プーの森、わかば薬局三鷹、みんなのブックカフェ。

詳しくはこちらをご覧ください。

[http://tokyoyuden.jp/facebook/23ku\\_out.html#mitaka](http://tokyoyuden.jp/facebook/23ku_out.html#mitaka)

どうぞみなさん、使い終わった食用油は捨てずに、回収ステーションに持っていきましょう。みなさんの油でバスを走らせることも夢ではありません。全国にたくさんの事例があります。いつか三鷹でも実現したいものですね。（竹上）



## ■「伝える」より「伝わる」環境へ

「環境にやさしく」「環境を大切に」等のキャッチコピーをよく目にします。抽象的過ぎるこのようなコピーをわかりやすく指標化しようとする「温室効果ガス排出量〇〇%削減」「緑地面積〇〇%以上」などと表現され、逆に具体的過ぎて一般の市民には身近に感じられないかも知れません。

普通の市民が容易に効果を想像できる表現とはどのようなものがあるのでしょうか？一つに「費用換算」があると思います。環境保護・保全・改善を達成・維持するために一人あたりいくらの費用が発生しているのか？ゴミの分別をしないと一人いくらの余計な費用が発生してしまうのか？たばこをポイ捨てすると一回あたりいくらの費用が発生するのか？環境のための行動がぐっと身近に感じられるようになりませんか？コピーや指標だけを「伝える」のではなく、相手に「伝わる」表現を、このみたか環境活動推進会議の活動を通して探してみたいと思います。（櫛田）

## ■井の頭の池について

神田川の源流である井の頭池の水は、60～70年以前は水草が生え、生息する魚やほかの生物がよく見えるほど清水でした。しかし最近では湧水量も減少し、富栄養化により植物プランクトン、特にアオコ（ミクロキステス）の増殖がみられるようになりました。また、都では井の頭恩賜公園100周年を記念し清水復活のために、池のかいぼりや干し上げ等々と底泥の改善について対策を取っていますが、目を見張るほどの変化はありません。私は以前より井の頭池には興味をもって、時々池の水の調査をしています。

たまたま平成23年に井の頭池の9か所について透視度を測定した結果があり、それと測定した結果とを表-1に示しました。平成23年に測定したときは、湧水のお茶の水が50cm以上であり、そのほかの地点は、25cm以下、最低は15cmと透明度の悪い状態でした。しかし、先日（平成26年8月11日）測定したところ、全9地点とも測定結果、全て50cm以上でした。昨年かいぼり、干し上げを行ったところも、行わなかったところもすべて50cm以上でした。

そこで、この原因はなんであるかと考え、井の頭公園に一番近い気象観測所における降水量を調べたのが表-2です。表-2によると、今年の1月～7月までの降水量は、過去5年間の平均値や、過去30年（1981～2010年）間の平均値と比較しても、それぞれ今年度の方が多く、また、年間降水量と比較しても多いです。この結果池の湧水量が増加し、神田川への流量も増加しています。しかしながら、多少の心配もないわけではなく、もし今後、池の湧水が減少すれば、現在でも池の表面水は、多少緑色が感じられる植物プランクトン（アオコ、ミクロキステス）の増殖により、再び不透明池になることを心配しています。この心配をなくすために、以前に、みたか環境ひろば第40号で湧水復活への方法を書いたように、各都市が透水性の良い舗装道路を増やしたり、また、屋根に降った雨水を地下に戻すための雨水浸透ますを増加すれば、雨水は地下へ、そして池は湧水量が増加し、透視度はよくなり、透明な水質になることが期待できます。（鈴木）

表-1 透視度測定結果 (単位cm)

	地点1	地点2	地点3	地点4	地点5	地点6	地点7	地点8	地点9
平成23年	50以上	20	16	25	15	18	15	15	15
平成26年	50以上								

表-2 府中気象観測所における降水量 (単位mm)

	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成21～25年平均値	過去30年間の平均値
1～7月	1111.5	639.5	1019.0	714.0	761.0	908.0	808.3	788.2
1～12月	-	1520.0	1696.0	1427.5	1714.0	1566.0	1584.7	1529.7

## 環境掲示板

### 「エコアイデア」募集

「エコアイデア」とは環境に配慮した取組を言います。みなさんが行っている省エネ、節電、節水、リサイクル、生ゴミ対策、緑のカーテンなどを教えてください。こちらで記事にして掲載させていただきます。ただし紙面の都合で掲載できない場合もあります。

問合せ：環境政策課(内線2525)

## 編集後記

近年、地球温暖化と生物多様性の関係が注目されています。注目される理由の1つに、本来、熱帯地域でしか生息できない生物が日本で発見されるということがあるようです。そのことは、日本にない病原菌を持ち込んだり、在来種に害を与えたりと影響が大きいものもあります。こういったニュースからも、地球温暖化防止を協力をしなければと、ますます意識します。（入江）

次の発行は平成27年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議  
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境政策課  
電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。